

お笑いを一席申し上げます

身近な慣行や因習などを考える

【学習のねらい】

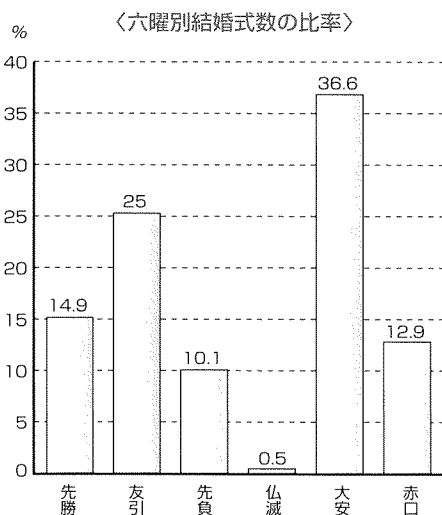
資料をもとに、日常生活の中で、慣行や因習を「昔からそうだから」「みんなもやっているから」と言って主体的な判断をせずに受け入れたり、他人に押しついたりしてしまうことについて考え合う。

【進め方】

- (1) 参加者がペアになり、資料をもとにA男・B子になりきってロールプレイする。ファシリテーター（推進役）が感情を込めて資料を読み進めることもよい。
- (2) 2人で、またはグループで気づいたことを話し合う。
- (3) グループ内で話された内容を全体で発表しあい、気づいた点を共有する。
- (4) 今日から改善できることや今後話題としていきたいことを各自で考え、グループ内で発表し合う。
- (5) 全体で振り返りをする。

【話し合いで出された例】

- 結婚式は大安
- 病院やホテルの部屋番号に4や9がない。
- 葬儀の時の清め塩
- 地域の役員に転入してきた人たちが少ない。
- お祭りの主役は男性で、裏方は女性
- 地域の作業の出不足金で男女に差がある。
- PTAの役員は男性で、出席のほとんどは女性
- 保育所の園児服は男子が水色、女子はピンク
- 外国から来た人の家庭は、隣組に入っていない。



「大安」はよい日で、「仏滅」は悪い日なのでしょう。六曜（ろくよう）は、もともと中国から伝わってきたものですが、現在その中国では使われていません。六曜は、旧暦の各月の一日を基点にして、

☆一、七月は「先勝」から
 ☆二、八月は「友引」から
 ☆三、九月は「先負」から
 ☆四、十月は「仏滅」から
 ☆五、十一月は「大安」から
 ☆六、十二月は「赤口」から

と機械的に決められています。

二日からは六曜を順繰りに当てはめるだけです。このように決められた六曜にとらわれ結婚する人が選んだよい日を「晋からそうだから」「みんなが言うから」という理由だけで、「よりよつてこんな目にするなんて」とささやくようなことがあつてよいでしょうか。

次のグラフはある結婚式場の、六曜別の結婚式数の比率です。皆さんで話し合ってみませんか。

「結婚式はよい日に」から
 「結婚式をする日はよい日」へ